

美和集落支援だより 令和5年12月号

美和総合支所 地域振興課
美和地域 集落支援員 鈴木
TEL:96-1111
FAX:96-0415



暖冬とはいえ、寒さが厳しい日もありますね。体調を崩されていませんか？早いもので年末です。みなさんにとって今年はどうな1年だったのでしょうか？

今月号では、担当地区の紹介をします。



～ 阿賀地区より ～

阿賀ふれあいセンターより



12月は阿賀ふれあいセンターにとって1年間のうちで忙しい月の1つです。

まずは収穫時期を迎えたこんにゃく芋を農家さんから仕入れます。今年は大きなものが多かったと聞きました。仕入れたこんにゃく芋の皮を剥いて下準備をします。手がかゆくなりそうなイメージですが、青空グループの方たちは慣れていて“へっちゃら”なのだそうです。こんにゃくづくり体験の準備はバッチリです。

他にはおもち加工もあります。お正月に食べるおもちを注文される方がたくさんいて、数日間に分けて加工します。「〇〇斗おもちをつくんだよ。」と聞いて、『斗』はあまり聞かない単位で、想像が追いつきませんでした。それでも昔に比べると少なくなったのだそうです。また、「お正月に食べるおもちを自分でつきたい！」と毎年おもちつき体験に来られる常連さんもいらっしゃるそうです。田舎では自宅や親族の家でのおもちつきをされる方が多いですが、当たり前なことではないのですね。自宅でのおもちつきが難しい方も体験を通して、年に1度は自分で作ったおもちを食べていただきたいですね。



阿賀のみなさんの2023年はどんな1年だったのでしょうか？

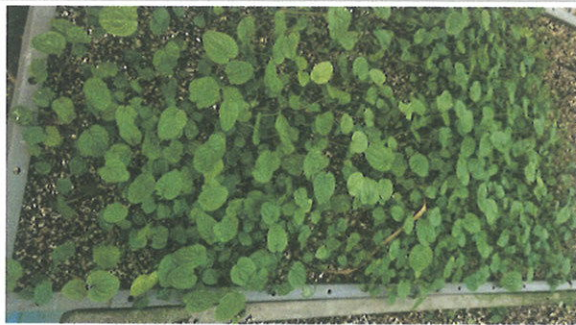
4月から集落支援員として着任し、わからないことばかりでしたが、みなさんのご協力のおかげで今年が無事に終わろうとしています。いろいろなことを体験させていただきありがとうございました。コロナの影響で行動が制限され、なかなか思うようにできなかったことが今年は少しずつできるようになりました。阿賀でもいろいろなイベントが開催され、たくさんの方が阿賀に来られました。少しでも多くの方に『阿賀地区』に興味を持ってもらうきっかけになっていればいいですね。来年も阿賀地区のみなさんにとって幸多き一年になることをお祈りいたします。





みなさんに知ってもらいたい！！

「わさび」と言われて、一般的に思いつくものは水がある沢で栽培されているものだと思います。ここで紹介するわさびは畑で栽培される畑わさびです。美和でも畑わさびを栽培している方がいらっしゃるのをご存じでしょうか。岩国のわさびといえば錦町のイメージを持たれる方が多いかと思います。美和でも栽培できるんです！！美和町秋掛の標高が高い地域で栽培されている方がいらっしゃいます。とても貴重な存在ですね。わさびは生育温度にうるさい作物で、寒すぎると生育が止まってしまう、暑すぎると枯れてしまいます。ミニトマトなどのようにちょっと庭先のプランターで...というわけにはいかず、少し特殊な環境が必要になり、収穫まで時間もかかります。難しいことはさておき、秋掛で栽培されているということがすごいですね。1月頃から収穫できる柔らかい葉っぱは岩国ではしょうゆ漬けで食べられることが多く、ごはんのお供にぴったりです。同じ時期に収穫される花はつぼみの状態で主に京阪神に出荷され、天ぷらやお浸しで食べられるそうです。わさびは薬味だけではないんです。是非一度ご賞味ください☆



わさびの苗。草丈は2～3 cmですが、これからじっくり大きくなっていきます。



がんばって大きくなっています！1月頃には菜の花に似たかわいい白い花が咲きます。

秋掛のみなさんの2023年はどんな1年だったでしょうか？

4月から集落支援員として着任し、アンケートを実施したり報告会などの協議を行ったりと多くの方にご協力をいただき、今年が無事に終わろうとしています。ありがとうございました。秋掛地区では8月には4年ぶりに納涼まつりが行われ、にぎわいました。また、空き家バンク制度を通じて新しい仲間も増えましたね。美和中学校のふるさと交流会では秋掛太鼓保存会の方が生徒に熱心に指導されている場面もありました。いろいろな場面に参加させていただき、たくさんの学びがありました。秋掛地区の新しい一歩に向けて、来年もよろしくお願いいたします。来年も秋掛地区のみなさんにとって幸多き一年になることをお祈りいたします。

